

## 令和4年度 第2回 伊予市部活動の地域移行に関する検討会議 会議録(概要)

日 時:令和5年3月22日(火)18時30分~20時

会 場:市役所4階大会議室

参加者:14人

### アンケート結果概要報告

R5年2月7日から2月20日の期間でアンケートを実施した。事前に委員から意見を聴取した。

調査対象は、市内の小学校5、6年の児童と中学校1、2年の生徒、中学校教職員、小学校5、6年生及び中学校1、2年生の保護者である。

学校で実施したので、児童生徒、教職員はほぼ全員から回答を得ることができた。保護者は577名から回答を得た。

(小学生)

「中学生になったら部活動をしてみたいか？」

85%が「ぜひやりたい」「できればやってみたい」と回答。

「住む地域の中学校に入りたい部活動はあるか？」

約4分の3の児童が「ある」、約4分の1が「ない」と回答。

「中学校でどのような種目の部活動があればやってみたいか？」

バドミントン、卓球、美術、技術、パソコンが多く野球、武道系は少ない。

「自分がやってみたい種目があれば自中学校区以外の場所でも活動したいか？」

半分以上は「そう思わない」と回答。「他の校区に行ってもよい」も一部あり。

「部活動で期待すること」

「スポーツや文化活動に慣れ親しみたい」、「友達と仲良く楽しく活動したい」、「体力や技術を向上させたい」が多い。

(中学生)

「学校で部活動しているか？」

4分の3は「学校で部活動をしている」と回答。クラブチーム等で活動している生徒もいる。

「自校の部活動でどのような種目があればやってみたいか？」

バドミントン、卓球が多数を占めた。小学生と比べると「特にない」や「したくない」も多い。

「学校での部活動が地域クラブに移った場合、その活動をしたいか？」

半数以上が「地域クラブに移行してもやってみたい」「続けたい」と回答。残りは「したくない」と回答。

「自分のやってみたい種目があれば自分の住む中学校以外の場所でも活動したいと思うか？」

半分以上が「どちらかといえばそう思う」または「そう思う」と回答。

「部活動で期待すること」

「その種目や活動を楽しみたい」、「友達と楽しく活動したい」、「体力や技術を向上させたい」が多数を占めた。小学生と同様の傾向である。

「部活動を地域の指導者が指導をするようになったら、どう思うか」

「専門なら地域の指導者でも良い」が4分の1、「顧問の先生に引き続きしてもらいたい」が4分の1超、「どちらでも良い」が3割程度であった。「わからない」という回答もあった。

(中学校教員)

「部活動を担当したくない、できれば担当したくない」が57%である。

「部活動を負担と感じているところ」

「経験のない部活動を担当する」が最も多い。次が「休日も含め、勤務時間外の活動となるところ」、3番目が「生徒間の意識、やる気の相違がある」。「保護者との人間関係」も多い。

「部活動が地域に移行すること」

「大いに賛成」、「どちらかといえば賛成」が4分の3を占める。

「部活動を地域が担うことについて、期待されること」

「教員の負担軽減に繋がる」が最も多い。「専門的な指導が受けられる」も多い。

「部活動を地域で担う時に心配されること」

「指導できる人材や受け皿の確保」が最も多い。次いで「運営体制の整備」、「生徒指導面」、「人間関係」、「学校としての責任の所在」などが多い。

「兼職兼業により部活動の指導を希望するか？」

「できれば兼業したくない」と「したくない」が83%、「希望する」は15%程度である。

(保護者)

「学校部活動の意味」

「スポーツマンシップ・チームワーク・協力が得られる」、「友情を育み交友範囲を広げる」が多数を占める。

「子どもが部活動に参加すること」

「大いに賛成」65%、「どちらかといえば賛成」27%である。

「中学校の部活動が段階的に地域移行することを知っていたか」

「よく知っている」が18%、「知らない」「よくわからない」が22%であることから、今後の周知が重要である。

「部活動が地域移行することをどう思うか」

「大いに賛成」が19%、「どちらかといえば賛成」が40%で約60%が賛成している。

「部活動を地域が担うことについて期待されること」

「教員の負担軽減」が最多で「専門的な指導が受けられる」が次点である。

「心配されること」

「活動場所までの移動や送迎の負担」が最も多い。「指導ができる人材、受け皿の確保」、「家庭による活動費用の負担」も多い。

「地域クラブ活動に協力を依頼された場合、協力しようと思うか」

「ぜひ協力したい」が6%、「前向きに検討する」が34%で約40%が前向きである。

自由記述では賛否両論ある。関心は非常に高く、不安感や懸念材料も多数ある。

### 令和5年度事業予算

部活動の地域移行に伴う予算は、約 210 万円計上している。

地域スポーツクラブ活動体制整備事業は、国、県、市が 1/3 ずつ負担する制度である。

内容は、協議会運営費と先進地研修バス代。先進地研修は、合同部活動形式の取組とスクールバスを運用した生徒輸送を実施している香川県東かがわ市での実施を検討している。

「外部指導者の配置支援」については、市単独事業として謝金と旅費、保険料を計上した。保険料は学校管理外ということになるので必要となる。

### 意見交換

・来年度から拠点校方式の部活動は可能か。⇒活動も大会参加も可能である。

・ボランティアは保険加入していないのか？⇒していない。

・外部コーチの有無で力の差が大きく広がることへの不安が出そうである。

⇒1ヶ所に集まるのはどうか？⇒移動や会場確保が問題となる。

・令和5年度モデル校等のイメージはあるか？⇒中山・双海が種目が少ないなか、やりたい種目に取り組めるようにできる事を模索する事が本市の大きな課題である。県や愛媛大学と連携して大学生の活用を検討している。市の持ち出しはない見込み。課題の洗い出し等の検証が必要である。

・各学校で部活種目はたくさんあるので、別施設を使っの指導を考えるとやりやすいのではないか。⇒要検討

・いつ移行するののかという期待がかなり強い。でも部活はやらないといけない。そのアンバランスさをどう現場で解消していくかでしんどい部分が出てくる

・作った上でどう下ろすかが学校としては大事である。

・本当にやりたい子はクラブへ行くような流れになる。伊予市が、厳しい部活を目指すのか、楽しくやる部活を目指すのか、どのような方針でいくのかを検討する必要がある。

・外部コーチと教職員の顧問で平日と土日の熱意の差が大きいと子供たちの負担が増える。ミーティング等で同じ方向性を確認した上でご指導いただきたい。

・市内各校、市内外の種目の情報交換が必要である。

・外部指導者の配置支援では、引率はできないのか？⇒現時点では愛媛県は基本認めていないが外部指導者の引率も認める方向性である。判断は教育委員会や学校になる。何かあった場合は学校長の責任となる。

・場所は学校が一番使いやすい。